卒業論文

本を介した場づくりが生み出す新たなつながりと〈まち文化〉

――「糸島の顔がみえる本屋さん」の事例より――

2019 年度入学

九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

1LT19116P　矢野詩織

2023 年 1 月　提出

要約

本論文では、本を介した場づくりの詳細と、それが生み出すものについての考察を行なう。

第 1 章では、本研究の目的について述べる。本研究の目的は、本を介して、どのような場がつくられているのか、その結果何が生み出されているのかを明らかにすることである。また、本を利用した場づくりの研究や、サードプレイス研究の一例として本件を加えるとともに、本が場にもたらす効果の再考と、サードプレイスでは満たせないニーズを満たすかもしれないこの場の可能性について考察したい。

第 2 章では、「本を介した場づくり」についての検討をするために、本を利用したまちづくりの事例とサードプレイスについてまとめた。本を利用したまちづくり、「本の町」づくりでは、「本」と「地域社会」を結び付けた考え方が特徴で、「本」は「地域社会」と「人」をつなぐ媒介として役割を果たしていることがわかった。また、場がサードプレイスとなり得るための条件を確認した上で、「レヴェラー（人を平等にする)」な場であることの重要性、「常連」の存在の必要性と、常連が場の利用の固定化を招く可能性についてまとめた。

第 3 章では、調査概要として、調査フィールドの地域性についての説明と、調査対象とした「糸島の顔がみえる本屋さん」についての概要、そして聞き取り調査を行った対象者 8 名の説明を行っている。

第 4 章では、「糸島の顔がみえる本屋さん」の議論に移る前に、それができるまでの土壌がつくられた過程を、2 名の聞き取り調査を参照しながらまとめた。

第 5 章では、「糸島の顔がみえる本屋さん」にて活動を行っている 6 名の聞き取り調査の分析を行った。活動を始める前に場に期待していたことと、活動開始後に見出された、強められた意義を比較し、この場にどういった機能があるかという点を探った。その結果、様々な他者との交流を生み、自身が気に入る本の発信をすることの喜びが見出され、空間の居心地の良さも感じられているということがわかった。

第 6 章では、「糸島の顔がみえる本屋さん」から派生した活動や、周辺での活動についてまとめた。団体として強制力を持って行われているのではなく、個人単位での発案がなされており、それを実現する周囲とのゆるやかな連携と、挑戦を受け入れる地域性が見られた。

第 7 章、最後の節では、「本を介した場づくり」はどのようなものであり、どういった効果を生み出しているのかについて考察を行った。場において、本は話題を提供し、自己の代弁者ともなり、場のコミュニケーションを活発化する。また、サードプレイスに必要とされる「レヴェラー」の要素を強め、場の利用の仕方に幅を持たせる効果もあり、場を開放的にする。「本」が、人と場をつなぐ媒介として役割を果たしている。また、場として特異である点は、店の監督者となる店番すらも交代制であるため、人の入れ替わりが激しく、場のメンバーの固定化が防がれているというものである。店番が店主でもあり客でもあるという中立の立場にあることが、気軽な人の出入りを喚起している。そのようにしてつくられた「本を介した場」では、長期的交流が可能であることはもちろん、一時的交流が生まれやすく、ちょっとした雑談ができるような後腐れのない関係や、「顔なじみ」程度の気楽な関係を築くことができる。そして、ちょっとした愛着を地域貢献につなげることができる仕組みがその場にはあり、「自分本位」が集結し、まち全体に良い影響をもたらす気質が〈まち文化〉が生み出されているのである。

目次

1　研究の目的と背景 1
2　先行研究の整理 2
2.1　本によるまちづくり 2
2.1.1　「本の町」づくりの概要 2
2.1.2　「本」の効力 2
2.2　サードプレイス 4
2.2.1　「サードプレイス」とは 4
2.2.2　「レヴェラー」な場所 5
2.2.3　「常連」の存在 5
3　調査概要 7
3.1　調査フィールドについて 7
3.2　「糸島の顔が見える本屋さん」概要 7
3.3　調査対象者 8
4　「糸かお」設立に至るまで 10
4.1　「いと会」の開催 10
4.2　「いとシネマ」の開催 10
4.3　「いとしまちカンパニー」の設立 11
4.4　「MAEBARU BOOKSTACKS」の完成・概要 12
4.5　活動の動機 13
4.6　Hさんへの聞き取り調査 14
4.7　「糸かお」の使われ方 16
5　オーナーへの聞き取り調査 18
5.1　オーナー活動の動機 18
5.1.1　本に触れること 18
5.1.2　様々な他者との交流 19
5.1.3　自身が気に入る本の発信 19
5.1.4　地域貢献 20
5.2　オーナー活動継続の動機 21
5.2.1　様々な他者との交流 21

5.2.2　自身が気に入る本の発信 25
5.2.3　空間の居心地のよさ 26
5.3　「糸かお」という場 28
5.4　糸かおの自由帳 29
6　「糸かお」周辺での活動事例 32
6.1　「All Books Considered」 32
6.2　「トムソー屋」 32
6.3　ベンチを増やす活動 33
6.4　「前原歩帖」 33
6.5　小括 33
7　考察 35
7.1　「本」を介することの重要性 35
7.1.1　人の興味を引く本 35
7.1.2　本を介してのコミュニケーション 35
7.1.3　場における本の効果 36
7.1.4　小括「本を介した場づくり」 38
7.2　場としての機能 38
7.2.1　「糸かお」の常連 38
7.2.2　商店街の中の「場を開く」こと 39
7.3　生み出された「新たなつながり」 40
7.4　生み出された〈まち文化〉 40
参考文献 43
謝辞 46